

大学番号：54

注3

# 意見伺い（JD）

[平成29年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科

京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻（国際連携学科）

注2

## 【意見伺い（JD）】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 京都工芸繊維大学  
令和元年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局（課）名 総務企画課

職名・氏名 ソウムキカクガカリ シュニン 総務企画係 主任 フカクサ マイ 深草 舞

電話番号 075-724-7014

（夜間） 075-724-7014

F A X 075-724-7010

e-mail soumuki@jim.kit.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

工学科学研究科

<京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻（国際連携学科）>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	37

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人 京都工芸繊維大学

【連携外国大学の設置者】タイ王国チェンマイ大学

## (2) 大学名

京都工芸繊維大学

【連携外国大学の名称】

Chiang Mai University (มหาวิทยาลัยเชียงใหม่)

## (3) 調査対象大学等の位置

〒606-8585

京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

【連携外国大学の本部の位置】

239, Huay Kaew Road, Muang District, Chiang Mai Thailand, 50200

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(フルヤマ マサオ) 古山 正雄 (平成24年4月1日)	(モリサコ キヨタカ) 森迫 清貴 (平成30年4月1日)	任期満了に伴う交代 (30)
理事	(モリサコ キヨタカ) 森迫 清貴 (平成24年4月1日)	(オノ ヨシロウ) 小野 芳朗 (平成30年7月1日)	学長就任に伴い空席 (30) 新規就任 (元)
	(オオタニ ヨシオ) 大谷 芳夫 (平成26年12月2日)	(ツツミ ナオト) 堤 直人 (平成30年4月1日)	任期満了に伴う交代 (30)
	(モリ ハジメ) 森 肇 (平成26年4月1日)	(ヨシモト マサヒロ) 吉本 昌広 (平成30年4月1日)	任期満了に伴う交代 (30)
	(ワタナベ ヒデキ) 渡部 英樹 (平成28年4月1日)	(イヌイ ケンイチ) 乾 賢一 (平成31年4月1日)	新規就任 (元)
研究科長	(モリ ハジメ) 森 肇 (平成27年4月1日)	(マエダ コウジ) 前田 耕治 (平成30年4月1日)	任期満了に伴う交代 (30)
専攻長	(キムラ ヒロアキ) 木村 博昭 (平成29年4月1日)	(タカキ マサト) 高木 真人 (平成31年4月1日)	任期満了に伴う交代 (元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

( ) 書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・ 大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・ 大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工芸科学研究科 京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻 修士(建築学)	工学関係	2 年	4 人 <71>	8 人 年次 人	8 人 <142>	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ < >内の数字は、母体となる学部等の全体の入学定員を記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	4月入学	8月入学	4月入学	8月入学	4月入学	8月入学	4月入学	8月入学			
A 入学定員	4 ( - ) [ - ]	人 ( - ) [ - ]	4 ( - ) [ - ]	人 ( - ) [ - ]	4 ( - ) [ - ]	人 ( - ) [ - ]			1.00倍	0.83倍	
志願者数	5 ( - ) [ - ]	3 ( - ) [ 3 ]	3 ( - ) [ - ]	2 ( - ) [ 2 ]	5 ( - ) [ - ]	人 ( ) [ ]					
受験者数	5 ( - ) [ - ]	3 ( - ) [ 3 ]	3 ( - ) [ - ]	2 ( - ) [ 2 ]	5 ( - ) [ - ]	人 ( ) [ ]					
合格者数	2 ( - ) [ - ]	2 ( - ) [ 2 ]	2 ( - ) [ - ]	2 ( - ) [ 2 ]	2 ( - ) [ - ]	人 ( ) [ ]					
B 入学者数	2 ( - ) [ - ]	2 ( - ) [ 2 ]	2 ( - ) [ - ]	2 ( - ) [ 2 ]	2 ( - ) [ - ]	人 ( ) [ ]					
入学定員超過率 B/A	1.00		1.00		0.50						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。(例)「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
- ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備考
	4月入学	8月入学	4月入学	8月入学	4月入学	8月入学	4月入学	8月入学	
1年次	2 [ - ] ( - )	2 [ 2 ] ( - )	2 [ - ] ( - )	2 [ 2 ] ( - )	2 [ - ] ( - )				
2年次	/		2 [ - ] ( - )	2 [ 2 ] ( - )	2 [ - ] ( - )	2 [ 2 ] ( - )			
計	4 [ 2 ] ( - )		8 [ 4 ] ( - )		6 [ 2 ] ( - )				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
  - (例) 「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
  - ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	4人	0人	平成29年度	0人	0人	
平成30年度	6人	0人	平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
令和元年度	6人	0人	平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		0人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工芸科学研究科 京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門-K I T + C M U 履修推奨科目	建築設計実習		1-2,10	京都工芸繊維大学	6	6	0	5	6	4	3	0	2	1
	都市設計実習		1-2,20	京都工芸繊維大学	6	6	0	2	4	1	3	0	2	1
	Graduate Design Studio in Architecture III		1-2,前	チェンマイ大学	6	6	0			2				
	国際共同設計実習A	○	1-2,20	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学	2	2	0	1	6	2				1
	国際共同設計実習B	○	1-2,40	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学	2	2	0	1	6	2				1
	建築デザイン		1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	4	1	1	1			
	都市デザイン		1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	1	1	1	1			
	安心安全デザイン技術		1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	2	2					
	国際設計プロジェクトI		1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	12	8	4	7			1
	国際設計プロジェクトII		1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	12	8	4	7			1
	地域設計プロジェクトI		1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7			1
	地域設計プロジェクトII		1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7			1
	建築設計学特別講義I		1-2,10	京都工芸繊維大学	1	1	0	5	1	2	2			2
	建築設計学特別講義II		1-2,20	京都工芸繊維大学	1	1	0	5	1	2	2			2
	Development and Management of Local Wisdom and Global Technology		1-2,前	チェンマイ大学	3	3	0			1				
	Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design		1-2,前	チェンマイ大学	3	3	0			1				
Urban Architecture		1-2,前	チェンマイ大学	3	3	0								
小計(17科目)					16	31	0	12	10	8	7	0	3	
修士論文・特定の課題またはそれらの指導に関する科目	都市・建築再生学演習I	1,通	1,通	京都工芸繊維大学	6	6	0	8	7	4	5			
	都市・建築再生学演習II	2,通	2,通	京都工芸繊維大学	6	6	0	8	7	4	5			
	(研究指導)		1-2,通	京都工芸繊維大学	-	-	-	8	7	4	5		0	
	Thesis		1-2,通	チェンマイ大学	12	12	0		7	4				
	都市・建築空間研究A	1-2,10-20	1-2,10-20	京都工芸繊維大学	3	3	0	5	3	2	2		0	
	都市・建築空間研究B	1-2,10-20	1-2,10-20	京都工芸繊維大学	3	3	0	5	3	2	2		0	
	(特別制作)		1-2,通	京都工芸繊維大学	-	-	-	5	3	2	2		1	
	Independent Study		1-2,通	チェンマイ大学	6	6	0		7	4				
	小計(6科目)				0	36	0	12	17	8	7	0	0	
	専門-K I T 履修科目	建築史		1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	3	2				
都市史			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	2	1	2				
建築力学・構造特論			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	1						
建築環境・設備論			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0							
住環境設計マネジメント			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	1		2			1	
都市・地域設計マネジメント			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	1	2					
建築構造設計マネジメント			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	1	1					
建築保存再生技術			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	1	3					
建築構造設計技術			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	1	1	1				
建築設備設計技術			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0						1	
建築設計学特別講義III			1-2,30	京都工芸繊維大学	1	1	0	5	1	2			2	
建築設計学特別講義IV			1-2,40	京都工芸繊維大学	1	1	0	5	1	2			2	
建築再生学特別講義I			1-2,10	京都工芸繊維大学	1	1	0	8	7	4	5		5	
建築再生学特別講義II			1-2,20	京都工芸繊維大学	1	1	0	8	7	4	5		5	
建築再生学特別講義III			1-2,30	京都工芸繊維大学	1	1	0	8	7	4	5		5	
建築再生学特別講義IV			1-2,40	京都工芸繊維大学	1	1	0	8	7	4	5		5	
国際設計プロジェクトIII			1-2,30	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
国際設計プロジェクトIV			1-2,40	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
地域設計プロジェクトIII			1-2,30	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
地域設計プロジェクトIV			1-2,40	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
建築都市保存再生プロジェクトI			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
建築都市保存再生プロジェクトII			1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
建築都市保存再生プロジェクトIII			1-2,30	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
建築都市保存再生プロジェクトIV			1-2,40	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
建築設計実務実習I		1,通	1,通	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
建築設計実務実習II		2,通	2,通	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
建築設計実務実習III		1-2,通	1-2,通	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	8	4	7		7	
小計(27科目)					0	48	0	11	8	4	7	0	0	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門-K I T + C M U 履修推奨科目	建築設計実習		1-2,10	京都工芸繊維大学	6	6	0	4	1	0	2	2	2
	都市設計実習		1-2,20	京都工芸繊維大学	6	6	0	7	5	1	5	2	2
	Advanced Graduate Design Studio in Architecture		1-2,前	チェンマイ大学	6	6	0			1			
	国際共同設計実習A	○	1-2,20	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学	2	2	0	0	5	2			1
	国際共同設計実習B	○	1-2,40	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学	2	2	0	0	5	2			1
	建築デザイン		1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	3	0	1	1		
	都市デザイン		1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	0	1	1	1		
	安心安全デザイン技術		1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	1	1	1			
	国際設計プロジェクトI		1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		1
	国際設計プロジェクトII		1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		1
	地域設計プロジェクトI		1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		1
	地域設計プロジェクトII		1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		1
	建築設計学特別講義I		1-2,10	京都工芸繊維大学	1	1	0	4	1	1	2		2
	建築設計学特別講義II		1-2,20	京都工芸繊維大学	1	1	0	4	1	1	2		2
	Development and Management of Local Wisdom and Global Technology in Architecture		1-2,前	チェンマイ大学	3	3	0			1			
	Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design		1-2,前	チェンマイ大学	3	3	0			1			
Urban Architecture		1-2,前	チェンマイ大学	3	3	0							
小計(17科目)					16	31	0	11	9	3	7	0	6
修士論文・特定の課題またはそれらの指導に関する科目	都市・建築再生学演習I	1,通	1,通	京都工芸繊維大学	6	6	0	8	6	1	5		
	都市・建築再生学演習II	2,通	2,通	京都工芸繊維大学	6	6	0	8	6	1	5		
	(研究指導)		1-2,通	京都工芸繊維大学	-	-	-	8	6	1	5		0
	Thesis		1-2,通	チェンマイ大学	12	12	0		7	4			
	都市・建築空間研究A	1-2,10-20	1-2,10-20	京都工芸繊維大学	3	3	0	4	1	2	2		0
	都市・建築空間研究B	1-2,10-20	1-2,10-20	京都工芸繊維大学	3	3	0	4	1	2	2		0
	(特別制作)		1-2,通	京都工芸繊維大学	-	-	-	4	1	2	2		1
	Independent Study		1-2,通	チェンマイ大学	6	6	0		5	4			
	小計(6科目)				0	36	0	11	14	5	7	0	1
	専門-K I T 履修科目	建築史		1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	3	1			
都市史			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	2	2	1			
建築力学・構造特論			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	2	1	0	1		
建築環境・設備論			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0						
住環境設計マネジメント			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	1		2			1
都市・地域設計マネジメント			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	2	2	0	1		
建築構造設計マネジメント			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	2	1	0	1		
建築保存再生技術			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	3	2	1	1		
建築構造設計技術			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	2	1	0	1		
建築設備設計技術			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0						1
建築設計学特別講義III			1-2,30	京都工芸繊維大学	1	1	0	4	1	1	2		2
建築設計学特別講義IV			1-2,40	京都工芸繊維大学	1	1	0	4	1	1	2		2
建築再生学特別講義I			1-2,10	京都工芸繊維大学	1	1	0	8	6	1	5		5
建築再生学特別講義II			1-2,20	京都工芸繊維大学	1	1	0	8	6	1	5		5
建築再生学特別講義III			1-2,30	京都工芸繊維大学	1	1	0	8	6	1	5		5
建築再生学特別講義IV			1-2,40	京都工芸繊維大学	1	1	0	8	6	1	5		5
国際設計プロジェクトIII			1-2,30	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		7
国際設計プロジェクトIV			1-2,40	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		7
地域設計プロジェクトIII			1-2,30	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		7
地域設計プロジェクトIV			1-2,40	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		7
建築都市保存再生プロジェクトI			1-2,10	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		7
建築都市保存再生プロジェクトII			1-2,20	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		7
建築都市保存再生プロジェクトIII			1-2,30	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		7
建築都市保存再生プロジェクトIV			1-2,40	京都工芸繊維大学	2	2	0	11	7	1	7		7
建築設計実務実習I		1,通	1,通	京都工芸繊維大学	3	3	0	11	7	1	7		7
建築設計実務実習II		2,通	2,通	京都工芸繊維大学	3	3	0	11	7	1	7		7
建築設計実務実習III		1-2,通	1-2,通	京都工芸繊維大学	3	3	0	11	7				

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	記号 年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目(続き)	Pre-Graduate Design Studio		1・2期	チェンマイ大学	2					2			
	Pre-Graduate Architectural Theory		1・2期	チェンマイ大学	2			1					
	Pre-Graduate Building Technology		1・2期	チェンマイ大学	2			1					
	Research Methodology in Architecture		1・2期	チェンマイ大学	3			1					
	Advanced Specific Architectural Knowledge		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Graduate Design Studio in Architecture I		1・2期	チェンマイ大学	6					2			
	Graduate Design Studio in Architecture II		1・2後	チェンマイ大学	6			1	2				
	Research for Architectural Design		1・2通	チェンマイ大学	3			1	2				
	Quantitative Research Methods in Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Qualitative Research Methods in Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Architectural Technology and Sustainable Environment		1・2後	チェンマイ大学	3				1				
	Specific Research in Architecture I		1・2通	チェンマイ大学	3			2					
	Specific Research in Architecture II		1・2通	チェンマイ大学	3			2					
	Critical Theories of Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1				
	Critical Practices of Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1				
	Theory of Architecture in Asia		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1				
	Selected Topics in Architectural History and Theory		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1				
	Properties and Behaviors of Architectural Materials		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Building Technology		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Architectural Management		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Advanced Professional Practices		1・2通	チェンマイ大学	3			2	1				
	Theory and Philosophy in Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			2	1				
	Research Approaches in Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			2	1				
	Dynamics of Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			2	1				
	Urban and Community Planning		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Principles and Practices in Urban Design		1・2通	チェンマイ大学	3			2					
	Environmental Perception and Assessment		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1				
	Selected Topics in Environment and Behavior		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Special Problem		1・2通	チェンマイ大学	3			7	4				
小計(29科目)					0	90	0	0	7	5	0	0	0
合計(79科目)					16	205	0	12	15	9	7	0	3
卒業要件及び履修方法													
<p>1 京都工芸繊維大学の開設科目より15単位以上、チェンマイ大学の開設科目より10単位以上、合計36単位以上を修得する。ただし、チェンマイ大学の学生は、京都工芸繊維大学の開設科目として必要とされる15単位以上のなか、共同開設科目である「国際共同設計実習A(2単位)」「国際共同設計実習B(2単位)」を含む。</p> <p>2 必修科目である「都市設計実習(6単位)」を修得し、「Graduate Design Studio in Architecture III(6単位)」を修得する。</p> <p>3 必修科目である共同開設科目「国際共同設計実習A(2単位)」「国際共同設計実習B(2単位)」を修得する。</p> <p>4 選択必修科目である「建築デザイン(2単位)」「都市デザイン(2単位)」「安心安全デザイン技術(2単位)」「建築設計学特別講義I(1単位)」「建築設計学特別講義II(1単位)」から1科目以上を修得する。</p> <p>5 選択必修科目である「Development and Management of Local Wisdom and Global Technology(3単位)」「Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design(3単位)」「Urban Architecture(3単位)」から1科目以上を修得する。</p> <p>6 GPAの点数が平均3.00以上の成績を修める。</p> <p>7 「都市・建築再生学演習I」及び「都市・建築再生学演習II」及び「研究指導」、又は「都市・建築空間研究A」及び「都市・建築空間研究B」及び「特別制作」のいずれか、チェンマイ大学の学生は「Thesis」又は「Independent Study」のいずれかを修得する。</p>													

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	記号 年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目(続き)	Pre-Graduate Design Studio		1・2期	チェンマイ大学	2					2			
	Pre-Graduate Architectural Theory		1・2期	チェンマイ大学	2			1					
	Pre-Graduate Building Technology		1・2期	チェンマイ大学	2			1					
	Inquiry for Advanced Architectural Design		1・2期	チェンマイ大学	3			1					
	Advanced Specific Architectural Knowledge		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Graduate Design Studio in Architecture I		1・2期	チェンマイ大学	6					2			
	Graduate Design Studio in Architecture II		1・2後	チェンマイ大学	6			1	2				
	Research for Architectural Design		1・2通	チェンマイ大学	3			1	2				
	Quantitative Research Methods in Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Qualitative Research Methods in Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Architectural Technology and Sustainable Environment		1・2後	チェンマイ大学	3				1				
	Specific Research in Architecture I		1・2通	チェンマイ大学	3			2					
	Specific Research in Architecture II		1・2通	チェンマイ大学	3			2					
	Critical Theories of Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1				
	Critical Practices of Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1				
	Theory of Architecture in Asia		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1	0			
	Selected Topics in Architectural History and Theory		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1				
	Properties and Behaviors of Architectural Materials		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Building Technology		1・2通	チェンマイ大学	3			1		0	1		
	Architectural Management		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Advanced Professional Practices		1・2通	チェンマイ大学	3			2	1				
	Theory and Philosophy in Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			2	1				
	Research Approaches in Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			2	1				
	Dynamics of Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3			2	1				
	Urban and Community Planning		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Principles and Practices in Urban Design		1・2通	チェンマイ大学	3			2					
	Environmental Perception and Assessment		1・2通	チェンマイ大学	3			1	1				
	Selected Topics in Environment and Behavior		1・2通	チェンマイ大学	3			1					
	Special Problem		1・2通	チェンマイ大学	3			7	4				
Seminar in Architecture I		1・2通	チェンマイ大学	1					1				
Seminar in Architecture II		1・2通	チェンマイ大学	1					1				
Seminar in Architecture III		1・2通	チェンマイ大学	1					1				
小計(32科目)					0	93	0	0	7	5	0	0	0
合計(82科目)					16	211	0	11	14	6	7	0	7
卒業要件及び履修方法													
<p>1 京都工芸繊維大学の開設科目より15単位以上、チェンマイ大学の開設科目より10単位以上、合計36単位以上を修得する。ただし、チェンマイ大学の学生は、京都工芸繊維大学の開設科目として必要とされる15単位以上のなか、共同開設科目である「国際共同設計実習A(2単位)」「国際共同設計実習B(2単位)」を含む。</p> <p>2 必修科目である「都市設計実習(6単位)」を修得し、「Graduate Design Studio in Architecture III(6単位)」を修得する。</p> <p>3 必修科目である共同開設科目「国際共同設計実習A(2単位)」「国際共同設計実習B(2単位)」を修得する。</p> <p>4 選択必修科目である「建築デザイン(2単位)」「都市デザイン(2単位)」「安心安全デザイン技術(2単位)」「建築設計学特別講義I(1単位)」「建築設計学特別講義II(1単位)」から1科目以上を修得する。</p> <p>5 選択必修科目である「Development and Management of Local Wisdom and Global Technology(3単位)」「Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design(3単位)」「Urban Architecture(3単位)」から1科目以上を修得する。</p> <p>6 GPAの点数が平均3.00以上の成績を修める。</p> <p>7 「都市・建築再生学演習I」及び「都市・建築再生学演習II」及び「研究指導」、又は「都市・建築空間研究A」及び「都市・建築空間研究B」及び「特別制作」のいずれか、チェンマイ大学の学生は「Thesis」又は「Independent Study」のいずれかを修得する。</p>													

【平成29年度】

Table for Heisei 29 (2017) academic year. Columns include: 科目区分 (Subject Division), 授業科目の名称 (Course Name), 共同開設科目 (Joint Course), 配当年次 (Year), 開設大学 (University), 単位数 (Credits) - 必修 (Compulsory), 選択 (Elective), 自由 (Free), 専任教員等の配置 (Faculty Allocation) - 教 (Lecturer), 准教授 (Assistant Prof), 講師 (Lecturer), 助教 (Assistant), 助手 (Assistant), 兼任・兼担 (Part-time/Shared), 小計 (6科目) (Subtotal 6 subjects), 小計 (17科目) (Subtotal 17 subjects), 小計 (27科目) (Subtotal 27 subjects).

【平成30年度】

Table for Heisei 30 (2018) academic year. Columns include: 科目区分 (Subject Division), 授業科目の名称 (Course Name), 共同開設科目 (Joint Course), 配当年次 (Year), 開設大学 (University), 単位数 (Credits) - 必修 (Compulsory), 選択 (Elective), 自由 (Free), 専任教員等の配置 (Faculty Allocation) - 教 (Lecturer), 准教授 (Assistant Prof), 講師 (Lecturer), 助教 (Assistant), 助手 (Assistant), 兼任・兼担 (Part-time/Shared), 小計 (6科目) (Subtotal 6 subjects), 小計 (17科目) (Subtotal 17 subjects), 小計 (27科目) (Subtotal 27 subjects).

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	記号 開校年度	開設大学	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任		
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
C M U 履修科目 (続き)	Graduate Design Studio in Architecture I		1・2前	チェンマイ大学	6					2				
	Graduate Design Studio in Architecture II		1・2後	チェンマイ大学	6				1	2				
	Research for Architectural Design		1・2通	チェンマイ大学	3				1	2				
	Quantitative Research Methods in Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Qualitative Research Methods in Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Architectural Technology and Sustainable Environment		1・2後	チェンマイ大学	3					1				
	Specific Research in Architecture I		1・2通	チェンマイ大学	3				2					
	Specific Research in Architecture II		1・2通	チェンマイ大学	3				2					
	Critical Theories of Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				1	1				
	Critical Practices of Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				1	1				
	Theory of Architecture in Asia		1・2通	チェンマイ大学	3				1	1				
	Selected Topics in Architectural History and Theory		1・2通	チェンマイ大学	3				1	1				
	Properties and Behaviors of Architectural Materials		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Building Technology		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Architectural Management		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Advanced Professional Practices		1・2通	チェンマイ大学	3				2	1				
	Theory and Philosophy in Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				2	1				
	Research Approaches in Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				2	1				
	Dynamics of Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				2	1				
	Urban and Community Planning		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Principles and Practices in Urban Design		1・2通	チェンマイ大学	3				2					
	Environmental Perception and Assessment		1・2通	チェンマイ大学	3				1	1				
	Selected Topics in Environment and Behavior		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Special Problem		1・2通	チェンマイ大学	3				7	4				
	小計(29科目)					0	90	0	0	7	5	0	0	0
	合計(79科目)					16	208	0	11	15	9	7	0	7

卒業要件及び履修方法

- 1 京都工芸繊維大学の開設科目より15単位以上、チェンマイ大学の開設科目より10単位以上、合計36単位以上を修得する。ただし、チェンマイ大学の学生は、京都工芸繊維大学の開設科目として必要とされる15単位以上のなか、共同開設科目である「国際共同設計実習A(2単位)」「国際共同設計実習B(2単位)」を含む。
- 2 必修科目である「都市設計実習(6単位)」を修得し、「Graduate Design Studio in Architecture III(6単位)」を修得する。
- 3 必修科目である共同開設科目「国際共同設計実習A(2単位)」「国際共同設計実習B(2単位)」を修得する。
- 4 選択必修科目である「建築デザイン(2単位)」「都市デザイン(2単位)」「安心安全デザイン技術(2単位)」「建築設計学特別講義I(1単位)」「建築設計学特別講義II(1単位)」から1科目以上を修得する。
- 5 選択必修科目である「Development and Management of Local Wisdom and Global Technology(3単位)」「Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design(3単位)」「Urban Architecture(3単位)」から1科目以上を修得する。
- 6 GPAの点数が平均3.00以上の成績を修める。
- 7 「都市・建築再生学演習Ⅰ」及び「都市・建築再生学演習Ⅱ」及び「研究指導」、又は「都市・建築空間研究A」及び「都市・建築空間研究B」及び「特別制作」のいずれか、チェンマイ大学の学生は「Thesis」又は「Independent Study」のいずれかを修得する。

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	記号 開校年度	開設大学	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任		
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手	
C M U 履修科目 (続き)	Graduate Design Studio in Architecture I		1・2前	チェンマイ大学	6					2				
	Graduate Design Studio in Architecture II		1・2後	チェンマイ大学	6				1	2				
	Research for Architectural Design		1・2通	チェンマイ大学	3				1	2				
	Quantitative Research Methods in Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Qualitative Research Methods in Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Architectural Technology and Sustainable Environment		1・2後	チェンマイ大学	3					1				
	Specific Research in Architecture I		1・2通	チェンマイ大学	3				2					
	Specific Research in Architecture II		1・2通	チェンマイ大学	3				2					
	Critical Theories of Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				1	1				
	Critical Practices of Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				1	1				
	Theory of Architecture in Asia		1・2通	チェンマイ大学	3				1	0				
	Selected Topics in Architectural History and Theory		1・2通	チェンマイ大学	3				1	1				
	Properties and Behaviors of Architectural Materials		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Building Technology		1・2通	チェンマイ大学	3				1	0	1			
	Architectural Management		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Advanced Professional Practices		1・2通	チェンマイ大学	3				2	1				
	Theory and Philosophy in Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				2	1				
	Research Approaches in Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				2	1				
	Dynamics of Vernacular Architecture		1・2通	チェンマイ大学	3				2	1				
	Urban and Community Planning		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Principles and Practices in Urban Design		1・2通	チェンマイ大学	3				2					
	Environmental Perception and Assessment		1・2通	チェンマイ大学	3				1	1				
	Selected Topics in Environment and Behavior		1・2通	チェンマイ大学	3				1					
	Special Problem		1・2通	チェンマイ大学	3				7	4				
	Seminar in Architecture I		1・2通	チェンマイ大学	1						1			
	Seminar in Architecture II		1・2通	チェンマイ大学	1						1			
	Seminar in Architecture III		1・2通	チェンマイ大学	1						1			
	小計(32科目)					0	93	0	0	7	5	0	0	0
	合計(82科目)					16	211	0	12	13	7	7	0	8

卒業要件及び履修方法

- 1 京都工芸繊維大学の開設科目より15単位以上、チェンマイ大学の開設科目より10単位以上、合計36単位以上を修得する。ただし、チェンマイ大学の学生は、京都工芸繊維大学の開設科目として必要とされる15単位以上のなか、共同開設科目である「国際共同設計実習A(2単位)」「国際共同設計実習B(2単位)」を含む。
- 2 必修科目である「都市設計実習(6単位)」を修得し、「Graduate Design Studio in Architecture III(6単位)」を修得する。
- 3 必修科目である共同開設科目「国際共同設計実習A(2単位)」「国際共同設計実習B(2単位)」を修得する。
- 4 選択必修科目である「建築デザイン(2単位)」「都市デザイン(2単位)」「安心安全デザイン技術(2単位)」「建築設計学特別講義I(1単位)」「建築設計学特別講義II(1単位)」から1科目以上を修得する。
- 5 選択必修科目である「Development and Management of Local Wisdom and Global Technology(3単位)」「Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design(3単位)」「Urban Architecture(3単位)」から1科目以上を修得する。
- 6 GPAの点数が平均3.00以上の成績を修める。
- 7 「都市・建築再生学演習Ⅰ」及び「都市・建築再生学演習Ⅱ」及び「研究指導」、又は「都市・建築空間研究A」及び「都市・建築空間研究B」及び「特別制作」のいずれか、チェンマイ大学の学生は「Thesis」又は「Independent Study」のいずれかを修得する。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成29年度】**

- ・ 設置計画書の記載漏れ及び担当教員を見直しにより、「建築設計実習」の教員配置を「教授5、准教授6、講師4、助教3、兼任・兼任2」から「教授5、准教授6、講師4、助教3、兼任・兼任4」に変更。
- ・ 設置計画書の記載漏れ及び担当教員を見直しにより、「都市設計実習」の教員配置を「教授2、准教授4、講師1、兼任・兼任1」から「教授2、准教授4、講師1、兼任・兼任2」に変更。
- ・ 設置計画書の誤記修正により、「国際共同設計実習A」「国際共同設計実習B」の教員配置を「教授1、准教授6、講師2」から「教授1、准教授5、講師2」に変更。
- ・ 就任辞退に伴う担当者見直しにより、「建築デザイン」の教員配置を「教授4助教1」から「教授3、助教1」に変更。
- ・ 就任辞退に伴う担当者見直しにより、「国際設計プロジェクトI」「国際設計プロジェクトII」の教員配置を「教授12、准教授8、講師4、助教7」から「教授11、准教授8、講師4、助教7」に変更。
- ・ 就任辞退に伴う担当者見直しにより、「地域設計プロジェクトI」「地域設計プロジェクトII」の教員配置を「教授11、准教授8、講師4、助教7」から「教授10、准教授8、講師4、助教7」に変更。
- ・ 就任辞退に伴う担当者見直しにより、「建築設計学特別講義I」「建築設計学特別講義II」の教員配置を「教授5、准教授1、助教2」から「教授4、准教授1、助教2」に変更。
- ・ 担当教員の見直しにより、「研究指導」の教員配置を「教授8、准教授7、講師4、助教5」から「教授8、准教授7、講師4、助教5、兼任・兼任1」に変更。
- ・ 就任辞退に伴う担当者見直しにより、「都市・建築空間研究A」「都市・建築空間研究B」「特別制作」の教員配置を「教授5、准教授3、助教2」から「教授4、准教授3、助教2、兼任・兼任1」に変更。
- ・ 設置計画書の誤記修正により、「Independent Study」の教員配置を「准教授7、講師4」から「准教授5、講師4」に変更。
- ・ 設置計画書の記載漏れ修正により、「建築環境・設備論」の教員配置を「兼任・兼任1」と修正。
- ・ 担当教員の見直しにより、「建築構造設計マネジメント」の教員配置を「准教授1、講師1」から「准教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・ 設置計画書の記載漏れ修正により、「建築設備設計技術」の教員配置を「兼任・兼任1」と修正。
- ・ 就任辞退に伴う担当者見直しにより、「建築設計学特別講義III」「建築設計学特別講義IV」の教員配置を「教授5、准教授1、助教2」から「教授4、准教授1、助教2」に変更。
- ・ 就任辞退に伴う担当者見直しにより、「国際設計プロジェクトIII」「国際設計プロジェクトIV」「地域設計プロジェクトIII」「地域設計プロジェクトIV」「建築都市保存再生プロジェクトI」「建築都市保存再生プロジェクトII」「建築都市保存再生プロジェクトIII」「建築都市保存再生プロジェクトIV」「建築設計実務実習I」「建築設計実務実習II」「建築設計実務実習III」の教員配置を「教授11、准教授8、講師4、助教7」から「教授10、准教授8、講師4、助教7」に変更。

**【平成30年度】**

- ・ 担当教員の昇任、定年退職、辞任により、「建築設計実習」の教員配置を「教授5、准教授6、講師4、助教3、兼任・兼任4」から「教授4、准教授1、講師0、助教2、兼任・兼任4」に変更。
- ・ 担当教員の昇任及び辞任により、「都市設計実習」の教員配置を「教授2、准教授4、講師1、兼任・兼任2」から「教授7、准教授3、講師3、助教5、兼任・兼任2」に変更。
- ・ タイ王国教育省の指示により、「Graduate Design Studio in Architecture III」を「Advanced Graduate Design Studio in Architecture」に科目名称変更。
- ・ 担当教員の見直しにより、「Advanced Graduate Design Studio in Architecture」の教員配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任により、「安心安全デザイン技術」の教員配置を「准教授2」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任、定年退職、辞任により、「国際設計プロジェクトI」「国際設計プロジェクトII」の教員配置を「教授11、准教授8、講師4、助教7」から「教授12、准教授6、講師2、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任、定年退職、辞任により、「地域設計プロジェクトI」「地域設計プロジェクトII」の教員配置を「教授11、准教授8、講師4、助教7」から「教授12、准教授6、講師2、助教7」に変更。
- ・ タイ王国教育省の指示により、「Development and Management of Local Wisdom and Global Technology」を「Development and Management of Local Wisdom and Global Technology in Architecture」に科目名称変更。
- ・ 担当教員の昇任、定年退職、辞任により、「都市・建築再生学演習I」「都市・建築再生学演習II」の教員配置を「教授8、准教授7、講師4、助教5」から「教授9、准教授3、講師3、助教5」に変更。
- ・ 担当教員の昇任、定年退職、辞任により、「研究指導」の教員配置を「教授8、准教授7、講師4、助教5、兼任・兼任1」から「教授9、准教授3、講師3、助教5」に変更。
- ・ 担当教員の見直しにより、「都市・建築空間研究A」「都市・建築空間研究B」の教員配置を「教授4、准教授3、助教2、兼任・兼任1」から「教授4、准教授1、助教2」に変更。
- ・ 担当教員の見直しにより、「特別制作」の教員配置を「教授4、准教授3、助教2、兼任・兼任1」から「教授4、准教授1、助教2、兼任・兼任1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任、定年退職により、「建築史」の教員配置を「教授3、准教授2」から「教授3、准教授1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任により、「都市史」の教員配置を「教授2、准教授1、講師2」から「教授2、准教授2、助教1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任により、「建築力学・構造特論」の教員配置を「教授1」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・ 担当教員の辞任により、「都市・地域設計マネジメント」の教員配置を「准教授1、講師2」から「准教授2、助教1」に変更。
- ・ 担当委員の昇任、辞任により、「建築構造設計マネジメント」の教員配置を「准教授1、講師1、助教1」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任、定年退職により、「建築保存再生技術」の教員配置を「教授1、准教授3」から「教授2、准教授1、助教1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任、辞任により、「建築構造設計技術」の教員配置を「准教授1、講師1、助教1」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任、定年退職、辞任により、「建築再生学特別講義I」「建築再生学特別講義II」「建築再生学特別講義III」「建築再生学特別講義IV」の教員配置を「教授8、准教授7、講師4、助教5」から「教授9、准教授5、講師2、助教5」に変更。
- ・ 担当教員の昇任、定年退職、辞任により、「国際設計プロジェクトIII」「国際設計プロジェクトIV」「地域設計プロジェクトIII」「地域設計プロジェクトIV」「建築都市保存再生プロジェクトI」「建築都市保存再生プロジェクトII」「建築都市保存再生プロジェクトIII」「建築都市保存再生プロジェクトIV」「建築設計実務実習I」「建築設計実務実習II」「建築設計実務実習III」の教員配置を「教授10、准教授8、講師4、助教7」から「教授12、准教授6、講師2、助教7」に変更。
- ・ タイ王国教育省の指示により、「Research Methodology in Architecture」を「Inquiry for Advanced Architectural Design」科目名称変更。
- ・ 担当教員の見直しにより、「Theory of Architecture in Asia」の教員配置を「准教授1、講師1」から「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員の見直しにより、「Building Technology」の教員配置を「准教授1」から「講師1」に変更。
- ・ 教育プログラム充実のため、「Seminar in Architecture I」「Seminar in Architecture II」「Seminar in Architecture III」を新設。

【令和元年度】

・授業内容と分担の見直しにより、「建築設計実習」の教員配置を「教授4、准教授1、助教2、兼4」から「教授4、准教授1、助教2、兼2」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「都市設計実習」の教員配置を「教授7、准教授4、講師2、助教5、兼2」から「教授7、准教授5、講師1、助教5、兼2」に変更。  
 ・担当教員の退職により、「国際共同設計実習A」の教員配置を「教授1、准教授5、講師2」から「准教授5、講師2、兼1」に変更。  
 ・担当教員の退職により、「国際共同設計実習B」の教員配置を「教授1、准教授5、講師2」から「准教授5、講師2、兼1」に変更。  
 ・授業内容と分担の見直しにより、「都市デザイン」の教員配置を「教授1、准教授1、講師1、助教1」から「准教授1、講師1、助教1」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「国際設計プロジェクトI」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7、兼1」から「教授11、准教授7、講師1、助教7、兼1」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「国際設計プロジェクトII」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7、兼1」から「教授11、准教授7、講師1、助教7、兼1」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「地域設計プロジェクトI」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「地域設計プロジェクトII」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「都市・建築再生学演習I」の教員配置を「教授9、准教授5、講師2、助教5」から「教授8、准教授6、講師1、助教5」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「都市・建築再生学演習II」の教員配置を「教授9、准教授5、講師2、助教5」から「教授8、准教授6、講師1、助教5」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「研究指導」の教員配置を「教授9、准教授5、講師2、助教5」から「教授8、准教授6、講師1、助教5」に変更。  
 ・担当教員の昇任、新規採用により、「建築力学・構造特論」の教員配置を「教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更。  
 ・担当教員の昇任、新規採用により、「建築構造設計マネジメント」の教員配置を「教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更。  
 ・担当教員の退職、新規採用により、「建築保存再生技術」の教員配置を「教授2、准教授1、助教1」から「教授3、准教授2、助教1」に変更。  
 ・担当教員の昇任、新規採用により、「建築構造設計技術」の教員配置を「教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築再生学特別講義I」の教員配置を「教授9、准教授5、講師2、助教5」から「教授8、准教授6、講師1、助教5」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築再生学特別講義II」の教員配置を「教授9、准教授5、講師2、助教5」から「教授8、准教授6、講師1、助教5」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築再生学特別講義III」の教員配置を「教授9、准教授5、講師2、助教5」から「教授8、准教授6、講師1、助教5」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築再生学特別講義IV」の教員配置を「教授9、准教授5、講師2、助教5」から「教授8、准教授6、講師1、助教5」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「国際設計プロジェクトIII」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「国際設計プロジェクトIV」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「地域設計プロジェクトIII」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「地域設計プロジェクトIV」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築都市保存再生プロジェクトI」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築都市保存再生プロジェクトII」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築都市保存再生プロジェクトIII」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築都市保存再生プロジェクトIV」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築設計実務実習I」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築設計実務実習II」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。  
 ・担当教員の退職、昇任、新規採用により、「建築設計実務実習III」の教員配置を「教授12、准教授6、講師2、助教7」から「教授11、准教授7、講師1、助教7」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
京都工芸繊維大学	1 科目	41 科目	0 科目	42 科目	1 科目 [ ]	41 科目 [ ]	0 科目 [ ]	42 科目 [ ]	
チェンマイ大学	1 科目	34 科目	0 科目	35 科目	1 科目	37 科目 [ +3 ]	0 科目 [ ]	38 科目 [ +3 ]	
共同開設科目	2 科目	0 科目	0 科目	2 科目	2 科目 [ ]	0 科目 [ ]	0 科目 [ ]	2 科目 [ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	京都工芸繊維大学	平成29年度、平成30年度、令和元年度 該当なし					
2	チェンマイ大学						
3	共同開設科目						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	京都工芸繊維大学	平成29年度、平成30年度、令和元年度 該当なし					
2	チェンマイ大学						
3	共同開設科目						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成29年度、平成30年度、令和元年度 該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{79} = \boxed{\phantom{0}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	福知山キャンパス購入 (29)  綾部市の拠点増加 (30)					
	校舎敷地	124,283 132,505 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	124,283 132,505 m <sup>2</sup>						
	運動場用地	18,658 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	18,658 m <sup>2</sup>						
	小 計	142,941 151,163 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	142,941 151,163 m <sup>2</sup>						
	そ の 他	62,204 62,240 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	62,204 62,240 m <sup>2</sup>						
	合 計	205,145 213,403 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	205,145 213,403 m <sup>2</sup>						
(2) 校 舎	専 用	118,020 114,414 114,445 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	118,020 114,414 114,445 m <sup>2</sup>	専攻単位では特定不能 のため、申請大学全体 の数 誤記修正(29) 綾部市の拠点増加 (30)					
	(+114,414 114,445 m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )	( m <sup>2</sup> )	(114,414 114,445 m <sup>2</sup> )							
(3) 教 室 等	講 義 室	47 51 55 室	演 習 室	45 34 44 39 室	実験実習室	327 278 306 333 室	情報処理学習施設	7 室	語学学習施設	5 室	福知山キャンパス購入 (28), 担当職員の採用 (29), 対象講義室等の 増加、担当職員の異動 等(30)。福知山キャン パスにおいて、実験 室が整備されたため (元)
	(補助職員 15 17 14人)	(補助職員 9 8人)									
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		教員の辞任、採用による 増減(元)					
	京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻			27 26 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	新規購入・寄贈、除却 による増減(29) (30) (元)			
	工芸科学部・ 工芸科学研究科	398,160 [155,373] 404,895 [160,521] 408,532 [161,174] 410,861 [161,588]	5,422 [2,473] 8,365 [5,357] 8,380 [5,363] 8,400 [5,352]	3,514 [2,888] 2,878 [2,820] 2,886 [2,827] 2,889 [2,830]	1,548 1,576 1,601 1,605	3,653 4,118 4,474 4,741	75 886				
		( )	( )	( )	( )	( )	( 75 886 )				
	計	398,160 [155,373] 404,895 [160,521] 408,532 [161,174] 410,861 [161,588]	5,422 [2,473] 8,365 [5,357] 8,380 [5,363] 8,400 [5,352]	3,514 [2,888] 2,878 [2,820] 2,886 [2,827] 2,889 [2,830]	1,548 1,576 1,601 1,605	3,653 4,118 4,474 4,741	75 886				
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		レイアウト変更(29) (30) (元)					
	4,893 m <sup>2</sup>	442 544 542 546 548		427,000 425,611 426,139 428,500							
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要									
	1,772 m <sup>2</sup>	武 道 場 、 弓 道 場 テ ニ ス コ ー ト 6 面									

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

※国際連携学科等に係る申請大学の状況を記載し、連携外国大学の状況は含めないでください。

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	京都工芸繊維大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地		
	年	人	年次	人		倍	年度	年度	年度		
工芸科学部									京都府京都市左 京区松ヶ崎橋上 町1番地		
応用生物学課程	4	50		200	学士(農学)	1.07	—	平成18年度 改組	同上		
応用化学課程	4	169		676	学士(工学)	1.04	平成30	平成30年度	同上		
生体分子応用化学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成26年度 改称	同上	平成30年度より募集停止	
高分子機能工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成30年度より募集停止	
物質工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成30年度より募集停止	
生体分子工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成26年より生体分子応用 化学課程に改称	
電子システム工学課程	4	61		244	学士(工学)	1.08	—	平成18年度 改組	同上		
情報工学課程	4	61		244	学士(工学)	1.02	—	平成18年度 改組	同上		
機械工学課程	4	86		344	学士(工学)	1.03	—	平成27年度 改称	同上		
機械システム工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成27年より機械工学課程 に改称	
デザイン・建築学課程	4	156		624	学士(工学)	1.02	平成30	平成30年度 設置	同上		
デザイン経営工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成30年度より募集停止	
デザイン・建築学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成26年度 改称	同上	平成30年度より募集停止	
造形工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成26年よりデザイン・建 築学課程に改称	
上記課程共通			50	100							
先端科学技術課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成28年より学生募集停止	
工芸科学研究科博士前期課程											
応用生物学専攻	2	40		80	修士(農学)	0.72	—	平成18年度 改組	同上		
材料創製化学専攻	2	33		66	修士(工学)	1.10	—	平成27年度 設置	同上		
材料制御化学専攻	2	32		64	修士(工学)	1.04	—	平成27年度 設置	同上		
物質合成化学専攻	2	33		66	修士(工学)	0.90	—	平成27年度 設置	同上		
機能物質化学専攻	2	32		64	修士(工学)	0.92	—	平成27年度 設置	同上		
電子システム工学専攻	2	50		100	修士(工学)	1.11	—	平成18年度 改組	同上		
情報工学専攻	2	46		92	修士(工学)	1.10	—	平成18年度 改組	同上		
機械システム工学専攻	2	—		—	修士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成27年より学生募集停止	
機械物理学専攻	2	37		74	修士(工学)	0.95	—	平成27年度 設置	同上		
機械設計学専攻	2	30		60	修士(工学)	1.06	—	平成27年度 設置	同上		
デザイン学専攻	2	45		90	修士(工学)	1.09	平成30	平成30年度 設置	同上		
デザイン経営工学専攻	2	—		—	修士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上		
造形工学専攻	2	—		—	修士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成26年より学生募集停止	
建築設計学専攻	2	—		—	修士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	平成26年より学生募集停止	
デザイン学専攻	2	—		—	修士(工学)	—	—	平成26年度 設置	同上	平成30年度より募集停止	
建築学専攻	2	71		142	修士(工 学)又は (建築設計 学)	1.08	—	平成26年度 設置	同上		

京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻	2	4	8	修士(学術)	0.75	平成29	平成29年度設置	同上	
先端ファイブ科学専攻	2	35	70	修士(工学)	0.86	—	平成18年度改組	同上	
バイオベースマテリアル学専攻	2	22	44	修士(工学)	0.72	—	平成22年度設置	同上	
工芸科学研究科博士後期課程									
生命物質科学専攻	3	—	—	博士(学術)又は(工学)	—	—	平成18年度改組	同上	平成27年より学生募集停止
バイオテクノロジー専攻	3	6	18	博士(学術)	1.44	—	平成27年度設置	同上	
物質・材料化学専攻	3	13	39	博士(学術)又は(工学)	0.76	—	平成27年度設置	同上	
電子システム工学専攻	3	5	15	博士(学術)又は(工学)	0.40	—	平成27年度設置	同上	
設計工学専攻	3	10	30	博士(学術)又は(工学)	0.76	—	平成18年度改組	同上	
造形科学専攻	3	—	—	博士(学術)又は(工学)	—	—	平成18年度改組	同上	平成26年より学生募集停止
デザイン学専攻	3	5	15	博士(学術)又は(工学)	0.80	—	平成26年度設置	同上	
建築学専攻	3	7	21	博士(学術)又は(工学)	0.76	—	平成26年度設置	同上	
先端ファイブ科学専攻	3	8	24	博士(学術)又は(工学)	1.12	—	平成18年度改組	同上	
バイオベースマテリアル学専攻	3	6	18	博士(工学)	0.44	—	平成24年度設置	同上	

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表  
 <京都工芸繊維大学>

【認可時又は届出時】

【平成29年度】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専任(調)	教授	木村 博昭 <平成29年4月> Ph.D	専任(調)	教授	木村 博昭 <平成29年4月> Ph.D	専任(調)	教授	木村 博昭 <平成29年4月> Ph.D	専任(調)	教授	
		国際共同設計実習A、B 建築デザイン 国際設計プロジェクトI、II 建築設計学特別講義I、II、III、IV 都市・建築空間研究A、B 特別制作			国際共同設計実習A、B 建築デザイン 国際設計プロジェクトI、II 建築設計学特別講義I、II、III、IV 都市・建築空間研究A、B 特別制作			国際共同設計実習A、B 建築デザイン 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 建築設計学特別講義I、II、III、IV 都市・建築空間研究A、B 特別制作 <b>建築設計実習</b> <b>地域設計プロジェクトI、II、III、IV</b> <b>建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV</b> <b>建築設計実務実習I、II、III</b>			
専任	教授	石田 潤一郎 <平成29年4月> 工学博士	専任	教授	石田 潤一郎 <平成29年4月> 工学博士	専任	教授		専任	教授	
		建築設計実習 建築史 都市・建築再生学演習I、II 建築保存再生技術 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 地域設計プロジェクトI、II、III、IV 建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV 建築設計実務実習I、II、III 建築再生学特別講義I、II、III、IV 研究指導			建築設計実習建築史 都市・建築再生学演習I、II 建築保存再生技術 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 地域設計プロジェクトI、II、III、IV 建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV 建築設計実務実習I、II、III 建築再生学特別講義I、II、III、IV 研究指導						
専任	教授	小野 芳朗 <平成29年4月> 博士(工学)	専任	教授	小野 芳朗 <平成29年4月> 博士(工学)	専任	教授	小野 芳朗 <平成29年4月> 博士(工学)	専任	教授	小野 芳朗 <平成29年4月> 博士(工学)
		都市・建築再生学演習I、II 都市史 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 地域設計プロジェクトI、II、III、IV 建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV 建築設計実務実習I、II、III 建築再生学特別講義I、II、III、IV 研究指導			都市・建築再生学演習I、II 都市史 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 地域設計プロジェクトI、II、III、IV 建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV 建築設計実務実習I、II、III 建築再生学特別講義I、II、III、IV 研究指導			都市・建築再生学演習I、II 都市史 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 地域設計プロジェクトI、II、III、IV 建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV 建築設計実務実習I、II、III 建築再生学特別講義I、II、III、IV 研究指導 <b>都市設計実習</b>			
専任	教授	小坂 郁夫 <平成29年4月> 博士(工学)	専任	教授	小坂 郁夫 <平成29年4月> 博士(工学)	専任	教授		専任	教授	
		建築設計実習 都市・建築再生学演習I、II 建築力学・構造特論 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 地域設計プロジェクトI、II、III、IV 建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV 建築設計実務実習I、II、III 建築再生学特別講義I、II、III、IV 研究指導			建築設計実習 都市・建築再生学演習I、II 建築力学・構造特論 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 地域設計プロジェクトI、II、III、IV 建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV 建築設計実務実習I、II、III 建築再生学特別講義I、II、III、IV 研究指導						
専任	教授	鈴木 克彦 <平成29年4月> 博士(工学)	専任	教授	鈴木 克彦 <平成29年4月> 博士(工学)	専任	教授	鈴木 克彦 <平成29年4月> 博士(工学)	専任	教授	
		建築設計実習 都市設計実習 都市・建築再生学演習I、II 住環境設計マネジメント 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 地域設計プロジェクトI、II、III、IV 建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV 建築設計実務実習I、II、III 建築再生学特別講義I、II、III、IV 研究指導			建築設計実習 都市設計実習 都市・建築再生学演習I、II 住環境設計マネジメント 国際設計プロジェクトI、II、III、IV 地域設計プロジェクトI、II、III、IV 建築都市保存再生プロジェクトI、II、III、IV 建築設計実務実習I、II、III 建築再生学特別講義I、II、III、IV 研究指導						











専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
								小島 雄太郎 <平成30年4月> 博士(工学)
			専任	助教	国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 研究指導 建築力学・構造特論 建築構造設計マネジメント 建築構造設計技術 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ			国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 研究指導 建築力学・構造特論 建築構造設計マネジメント 建築構造設計技術 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
		中村 潔 <平成29年4月> 修士(工学)			中村 潔 <平成29年4月> 修士(工学)			中村 潔 <平成29年4月> 修士(工学)
	専任	助教		専任	助教		専任	助教
		建築デザイン 都市・建築空間研究A、B 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築設計学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 特別制作			建築デザイン 都市・建築空間研究A、B 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築設計学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 特別制作			建築デザイン 都市・建築空間研究A、B 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築設計学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 特別制作 建築設計実習 都市設計実習
		中山 利恵 <平成29年4月> 博士(工学)			中山 利恵 <平成29年4月> 博士(工学)			中山 利恵 <平成29年4月> 博士(工学)
	専任	助教		専任	助教		専任	助教
		住環境設計マネジメント 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 研究指導			住環境設計マネジメント 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 研究指導			住環境設計マネジメント 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 研究指導 都市設計実習
		松田 剛佐 <平成29年4月> 修士(工学)			松田 剛佐 <平成29年4月> 修士(工学)			松田 剛佐 <平成29年4月> 修士(工学)
	専任	助教		専任	助教		専任	助教
		建築設計実習 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 研究指導			建築設計実習 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 研究指導 都市設計実習 建築保存再生技術			建築設計実習 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 研究指導 都市設計実習 建築保存再生技術
		三宅 拓也 <平成29年4月> 博士(学術)			三宅 拓也 <平成29年4月> 博士(学術)			三宅 拓也 <平成29年4月> 博士(学術)
	専任	助教		専任	助教		専任	助教
		建築設計実習 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 研究指導			建築設計実習 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 研究指導 都市設計実習 都市・地域設計マネジメント			建築設計実習 都市・建築再生学演習Ⅰ、Ⅱ 国際設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 地域設計プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築都市保存再生プロジェクトⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 建築設計実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 建築再生学特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 研究指導 都市設計実習 都市・地域設計マネジメント

<チェンマイ大学>

【認可時又は届出時】

【平成29年度】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
外国(調)	講師相当 Lect. (a. ns.)	エカチャイ マハエック Ekkachai Mahaek <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Architecture	・国際共同設計実習A、B ・Development and Management of Local Wisdom and Global Technology ・Architectural Technology and Sustainable Environment ・Advanced Professional Practices ・Special Problem ・Independent Study ・Thesis
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	アピチョケ レカグル Apichoke Lekagul <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Environmental Design and Planning	・国際共同設計実習A、B ・Research Methodology in Architecture ・Quantitative Research Methods in Architecture ・Qualitative Research Methods in Architecture ・Specific Research in Architecture I、II ・Advanced Professional Practices ・Environmental Perception and Assessment ・Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design ・Selected Topics in Environment and Behavior ・Special Problem ・Thesis
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	ナウジット オンサワンチャイ Nawit Ongsavangchai <平成29年4月> 博士(工学)	・国際共同設計実習A、B ・Advanced Professional Practices ・Urban Architecture ・Urban and Community Planning ・Principles and Practices in Urban Design ・Special Problem ・Independent Study ・Thesis
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	タヌト ワロンクン Tanut Waroonkun <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Engineering	・Pre-Graduate Building Technology ・Advanced Specific Architectural Knowledge ・Specific Research in Architecture I ・Specific Research in Architecture II ・Properties and Behaviors of Architectural Materials ・Building Technology ・Architectural Management ・Special Problem ・Thesis

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
外国(調)	講師相当 Lect. (a. ns.)	エカチャイ マハエック Ekkachai Mahaek <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Architecture	・国際共同設計実習A、B ・Development and Management of Local Wisdom and Global Technology ・Architectural Technology and Sustainable Environment ・Advanced Professional Practices ・Special Problem ・Independent Study ・Thesis
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	アピチョケ レカグル Apichoke Lekagul <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Environmental Design and Planning	・国際共同設計実習A、B ・Research Methodology in Architecture ・Quantitative Research Methods in Architecture ・Qualitative Research Methods in Architecture ・Specific Research in Architecture I、II ・Advanced Professional Practices ・Environmental Perception and Assessment ・Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design ・Selected Topics in Environment and Behavior ・Special Problem ・Thesis
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	ナウジット オンサワンチャイ Nawit Ongsavangchai <平成29年4月> 博士(工学)	・国際共同設計実習A、B ・Advanced Professional Practices ・Urban Architecture ・Urban and Community Planning ・Principles and Practices in Urban Design ・Special Problem ・Independent Study ・Thesis
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	タヌト ワロンクン Tanut Waroonkun <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Engineering	・Pre-Graduate Building Technology ・Advanced Specific Architectural Knowledge ・Specific Research in Architecture I ・Specific Research in Architecture II ・Properties and Behaviors of Architectural Materials ・Building Technology ・Architectural Management ・Special Problem ・Thesis

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
外国(調)	講師相当 Lect. (a. ns.)	エカチャイ マハエック Ekkachai Mahaek <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Architecture	・国際共同設計実習A、B ・Development and Management of Local Wisdom and Global Technology <b>in Architecture</b> ・Architectural Technology and Sustainable Environment ・Advanced Professional Practices ・Special Problem ・Independent Study ・Thesis ・Advanced Graduate Design Studio in Architecture ・Building Technology
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	アピチョケ レカグル Apichoke Lekagul <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Environmental Design and Planning	・国際共同設計実習A、B ・Research Methodology in Architecture <b>Inquiry for Advanced Architectural Design</b> ・Quantitative Research Methods in Architecture ・Qualitative Research Methods in Architecture ・Specific Research in Architecture I、II ・Advanced Professional Practices ・Environmental Perception and Assessment ・Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design ・Selected Topics in Environment and Behavior ・Special Problem ・Thesis ・Seminar in Architecture II
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	ナウジット オンサワンチャイ Nawit Ongsavangchai <平成29年4月> 博士(工学)	・国際共同設計実習A、B ・Advanced Professional Practices ・Urban Architecture ・Urban and Community Planning ・Principles and Practices in Urban Design ・Special Problem ・Independent Study ・Thesis ・Theory of Architecture in Asia
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	タヌト ワロンクン Tanut Waroonkun <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Engineering	・Pre-Graduate Building Technology ・Advanced Specific Architectural Knowledge ・Specific Research in Architecture I ・Specific Research in Architecture II ・Properties and Behaviors of Architectural Materials ・Building Technology ・Architectural Management ・Special Problem ・Thesis

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
外国(調)	講師相当 Lect. (a. ns.)	エカチャイ マハエック Ekkachai Mahaek <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Architecture	・国際共同設計実習A、B ・Development and Management of Local Wisdom and Global Technology <b>in Architecture</b> ・Architectural Technology and Sustainable Environment ・Advanced Professional Practices ・Special Problem ・Independent Study ・Thesis ・Advanced Graduate Design Studio in Architecture ・Building Technology
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	アピチョケ レカグル Apichoke Lekagul <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Environmental Design and Planning	・国際共同設計実習A、B ・Research Methodology in Architecture <b>Inquiry for Advanced Architectural Design</b> ・Quantitative Research Methods in Architecture ・Qualitative Research Methods in Architecture ・Specific Research in Architecture I、II ・Advanced Professional Practices ・Environmental Perception and Assessment ・Application of Theories of Human Behavior in Environmental Studies and Design ・Selected Topics in Environment and Behavior ・Special Problem ・Thesis ・Seminar in Architecture II
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	ナウジット オンサワンチャイ Nawit Ongsavangchai <平成29年4月> 博士(工学)	・国際共同設計実習A、B ・Advanced Professional Practices ・Urban Architecture ・Urban and Community Planning ・Principles and Practices in Urban Design ・Special Problem ・Independent Study ・Thesis ・Theory of Architecture in Asia
外国	准教授相当 Asst. Prof. (sn. ns.)	タヌト ワロンクン Tanut Waroonkun <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Engineering	・Pre-Graduate Building Technology ・Advanced Specific Architectural Knowledge ・Specific Research in Architecture I ・Specific Research in Architecture II ・Properties and Behaviors of Architectural Materials ・Building Technology ・Architectural Management ・Special Problem ・Thesis



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
外国	准教授 Asst. Prof. (准. 授.)	サンー スワッチャラピナン Sant Suwatcharapinun <平成29年4月> Ph. D. (Architecture)	外国	サンー スワッチャラピナン Sant Suwatcharapinun <平成29年4月> Ph. D. (Architecture)	外国	サンー スワッチャラピナン Sant Suwatcharapinun <平成29年4月> Ph. D. (Architecture)	外国	サンー スワッチャラピナン Sant Suwatcharapinun <平成29年4月> Ph. D. (Architecture)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>Pre-Graduate Architectural Theory</li> <li>Critical Theories of Architecture</li> <li>Critical Practices of Architecture</li> <li>Theory of Architecture in Asia</li> <li>Selected Topics in Architectural History and Theory</li> <li>Special Problem</li> <li>Independent Study</li> <li>Thesis</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Pre-Graduate Architectural Theory</li> <li>Critical Theories of Architecture</li> <li>Critical Practices of Architecture</li> <li>Theory of Architecture in Asia</li> <li>Selected Topics in Architectural History and Theory</li> <li>Special Problem</li> <li>Independent Study</li> <li>Thesis</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Pre-Graduate Architectural Theory</li> <li>Critical Theories of Architecture</li> <li>Critical Practices of Architecture</li> <li><del>Theory of Architecture in Asia</del></li> <li>Selected Topics in Architectural History and Theory</li> <li>Special Problem</li> <li>Independent Study</li> <li>Thesis</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Pre-Graduate Architectural Theory</li> <li>Critical Theories of Architecture</li> <li>Critical Practices of Architecture</li> <li><del>Theory of Architecture in Asia</del></li> <li>Selected Topics in Architectural History and Theory</li> <li>Special Problem</li> <li>Independent Study</li> <li>Thesis</li> </ul>
外国	准教授 Asst. Prof. (准. 授.)	ガルナ ラッサウィン Karuna Raksawin <平成29年4月> 博士(工学)	外国	ガルナ ラッサウィン Karuna Raksawin <平成29年4月> 博士(工学)	外国	ガルナ ラッサウィン Karuna Raksawin <平成29年4月> 博士(工学)	外国	ガルナ ラッサウィン Karuna Raksawin <平成29年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>Graduate Design Studio in Architecture II</li> <li>Research for Architectural Design</li> <li>Principles and Practices in Urban Design</li> <li>Special Problem</li> <li>Independent Study</li> <li>Thesis</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Graduate Design Studio in Architecture II</li> <li>Research for Architectural Design</li> <li>Principles and Practices in Urban Design</li> <li>Special Problem</li> <li>Independent Study</li> <li>Thesis</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Graduate Design Studio in Architecture II</li> <li>Research for Architectural Design</li> <li>Principles and Practices in Urban Design</li> <li>Special Problem</li> <li>Independent Study</li> <li>Thesis</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Graduate Design Studio in Architecture II</li> <li>Research for Architectural Design</li> <li>Principles and Practices in Urban Design</li> <li>Special Problem</li> <li>Independent Study</li> <li>Thesis</li> </ul>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください)。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

<京都工芸繊維大学>

**【平成29年度】**

・Viray Erwin教授を専任教員ではなく、兼任教員として採用

**【平成30年度】**

・清水准教授、金尾准教授、阪田准教授が教授に昇任（教員審査省略）  
・岩本講師が准教授に昇任（教員審査省略）  
・石田教授、小坂教授が定年退職  
・佐々木講師が退職  
・北尾助教の退職により、小島助教を採用（教員審査省略）

**【令和元年度】**

・木村特定教授、田原特任教授、矢ヶ崎准教授が退職  
・鈴木教授が定年退職  
・満田教授、武井特任教授、登谷准教授を採用（教員審査省略）

<チェンマイ大学>

【平成29年度】

特になし

【平成30年度】

特になし

【令和元年度】

特になし

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員〔研究指導教員等〕が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4 名	3 名	研究指導教員と合わせて7名以上 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
12	8	4	7	31	11	7	2	7	27
( 11 )	( 9 )	( 3 )	( 7 )	( 30 )					
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
24	7	0			19	7	0		
( 23 )	( 7 )	( 0 )							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（C）
11	7	2	7	27	11	7	1	7	26
[ Δ1 ]	[ Δ1 ]	[ Δ2 ]	[ 0 ]	[ Δ4 ]	[ Δ1 ]	[ Δ1 ]	[ Δ3 ]	[ 0 ]	[ Δ6 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
20	7	0			19	7	0		
[ Δ4 ]	[ 0 ]	[ 0 ]			[ Δ5 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{27}{31} = \boxed{87.09} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{27} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(注)・本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員(同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員研究指導教員等)が兼ねて担当する場合も含める)について記入してください。

(3) -① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由	
1	教授	Viray Erwin	H29.3	選択	建築デザイン	①	海外の大学において専任教員となったため就任辞退となったが、ゼミ科目(都市・建築空間研究A、B)は兼任の非常勤講師として指導を行っている。	
				選択	都市・建築空間研究A	②(兼任となった本人)		
				選択	都市・建築空間研究B	②(兼任となった本人)		
				選択	国際設計プロジェクトI	①		
				選択	国際設計プロジェクトII	①		
				選択	国際設計プロジェクトIII	①		
				選択	国際設計プロジェクトIV	①		
				選択	地域設計プロジェクトI	①		
				選択	地域設計プロジェクトII	①		
				選択	地域設計プロジェクトIII	①		
				選択	地域設計プロジェクトIV	①		
				選択	建築都市保存再生プロジェクトI	①		
				選択	建築都市保存再生プロジェクトII	①		
				選択	建築都市保存再生プロジェクトIII	①		
				選択	建築都市保存再生プロジェクトIV	①		
				選択	建築設計実務実習I	①		
				選択	建築設計実務実習II	①		
				選択	建築設計実務実習III	①		
				選択	建築設計学特別講義I	①		
				選択	建築設計学特別講義II	①		
選択	建築設計学特別講義III	①						
選択	建築設計学特別講義IV	①						
合計(D)					後任補充状況の集計(E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)	
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	22	科目	選択	20	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	22	科目	計	20	科目	
必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
選択	22	科目	選択	20	科目	選択	2	科目
自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
計	22	科目	計	20	科目	計	2	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由
1	講師	佐々木 厚司	H30.3	選択	建築設計実習	①	H30.3.31付け他大学に異動のため辞任(30)
				必修	都市設計実習	①	
				選択	都市・建築再生学演習I	①	
				選択	都市・建築再生学演習II	①	
				選択	都市・地域設計マネジメント	①	
				選択	国際設計プロジェクトI	①	
				選択	国際設計プロジェクトII	①	
				選択	国際設計プロジェクトIII	①	
				選択	国際設計プロジェクトIV	①	
				選択	地域設計プロジェクトI	①	
				選択	地域設計プロジェクトII	①	
				選択	地域設計プロジェクトIII	①	
				選択	地域設計プロジェクトIV	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトI	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトII	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトIII	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトIV	①	
				選択	建築設計実務実習I	①	
				選択	建築設計実務実習II	①	
				選択	建築設計実務実習III	①	
				選択	建築再生学特別講義I	①	
				選択	建築再生学特別講義II	①	
選択	建築再生学特別講義III	①					
選択	建築再生学特別講義IV	①					
選択	研究指導	①					

2	助教	北尾 聡子	H30.3	選択	建築設計実習	①	H30.3.31付け他大学に異動のため辞任 (30)
				選択	都市・建築再生学演習Ⅰ	①	
				選択	都市・建築再生学演習Ⅱ	①	
				選択	建築構造設計技術	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅠ	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅡ	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅢ	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅣ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅠ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅡ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅢ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅣ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅠ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅡ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅢ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅣ	①	
				選択	建築設計実務実習Ⅰ	①	
				選択	建築設計実務実習Ⅱ	①	
				選択	建築設計実務実習Ⅲ	①	
				選択	建築再生学特別講義Ⅰ	①	
				選択	建築再生学特別講義Ⅱ	①	
				選択	建築再生学特別講義Ⅲ	①	
				選択	建築再生学特別講義Ⅳ	①	
選択	研究指導	①					
3	准教授	矢ヶ崎 善太郎	H31.3	選択	建築設計実習	①	H31.3.31付け他大学に異動のため辞任 (元)
				選択	都市・建築再生学演習Ⅰ	①	
				選択	都市・建築再生学演習Ⅱ	①	
				必修	都市設計実習	①	
				選択	建築史	①	
				選択	建築保存再生技術	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅠ	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅡ	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅢ	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅣ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅠ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅡ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅢ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅣ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅠ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅡ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅢ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅣ	①	
				選択	建築設計実務実習Ⅰ	①	
				選択	建築設計実務実習Ⅱ	①	
				選択	建築設計実務実習Ⅲ	①	
				選択	建築再生学特別講義Ⅰ	①	
				選択	建築再生学特別講義Ⅱ	①	
選択	建築再生学特別講義Ⅲ	①					
選択	建築再生学特別講義Ⅳ	①					
選択	研究指導	①					
4	特定教授	木村 博昭	H31.3	必修	国際共同設計実習A	①	H31.3.31付け完成年度を迎えたため定年延長を終了 (元)
				必修	国際共同設計実習B	①	
				選択	建築デザイン	①	
				選択	建築設計学特別講義Ⅰ	①	
				選択	建築設計学特別講義Ⅱ	①	
				選択	建築設計学特別講義Ⅲ	①	
				選択	建築設計学特別講義Ⅳ	①	
				選択	都市・建築空間研究A	①	
				選択	都市・建築空間研究B	①	
				選択	建築設計実習	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅠ	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅡ	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅢ	①	
				選択	国際設計プロジェクトⅣ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅠ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅡ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅢ	①	
				選択	地域設計プロジェクトⅣ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅠ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅡ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅢ	①	
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅣ	①	
				選択	建築設計実務実習Ⅰ	①	
選択	建築設計実務実習Ⅱ	①					
選択	建築設計実務実習Ⅲ	①					
選択	特別製作	①					

5	特任教授	田原 幸夫	H31.3	選択	都市・建築再生学演習Ⅰ	①	H31.3.31付け任期満了に伴う退職（元）		
				選択	都市・建築再生学演習Ⅱ	①			
				選択	建築再生学特別講義Ⅰ	①			
				選択	建築再生学特別講義Ⅱ	①			
				選択	建築再生学特別講義Ⅲ	①			
				選択	建築再生学特別講義Ⅳ	①			
				選択	国際設計プロジェクトⅠ	①			
				選択	国際設計プロジェクトⅡ	①			
				選択	国際設計プロジェクトⅢ	①			
				選択	国際設計プロジェクトⅣ	①			
				選択	地域設計プロジェクトⅠ	①			
				選択	地域設計プロジェクトⅡ	①			
				選択	地域設計プロジェクトⅢ	①			
				選択	地域設計プロジェクトⅣ	①			
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅠ	①			
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅡ	①			
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅢ	①			
				選択	建築都市保存再生プロジェクトⅣ	①			
				選択	建築設計実務実習Ⅰ	①			
				選択	建築設計実務実習Ⅱ	①			
選択	建築設計実務実習Ⅲ	①							
選択	研究指導	①							
合計（F）				後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
5	人	必修	4 科目	必修	4 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	119 科目	選択	119 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	123 科目	計	123 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
6	人	必修	4 科目	必修	4 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	141 科目	選択	139 科目	選択	2 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	145 科目	計	143 科目	計	2 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{6}{31} = \boxed{19.35} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	石田 潤一郎	選択	建築史	①	H30.3.31付け65歳で定年退職 (30)
			選択	都市・建築再生学演習Ⅰ	①	
			選択	都市・建築再生学演習Ⅱ	①	
			選択	建築保存再生技術	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅠ	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅡ	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅢ	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅣ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅠ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅡ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅢ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅣ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅠ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅡ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅢ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅣ	①	
			選択	建築設計実務実習Ⅰ	①	
			選択	建築設計実務実習Ⅱ	①	
			選択	建築設計実務実習Ⅲ	①	
			選択	建築再生学特別講義Ⅰ	①	
選択	建築再生学特別講義Ⅱ	①				
選択	建築再生学特別講義Ⅲ	①				
選択	建築再生学特別講義Ⅳ	①				
選択	研究指導	①				
2	教授	小坂 郁夫	選択	建築設計実習	①	H30.3.31付け65歳で定年退職 (30)
			選択	都市・建築再生学演習Ⅰ	①	
			選択	都市・建築再生学演習Ⅱ	①	
			選択	建築力学・構造特論	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅠ	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅡ	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅢ	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅣ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅠ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅡ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅢ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅣ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅠ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅡ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅢ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅣ	①	
			選択	建築設計実務実習Ⅰ	①	
			選択	建築設計実務実習Ⅱ	①	
			選択	建築設計実務実習Ⅲ	①	
			選択	建築再生学特別講義Ⅰ	①	
選択	建築再生学特別講義Ⅱ	①				
選択	建築再生学特別講義Ⅲ	①				
選択	建築再生学特別講義Ⅳ	①				
選択	研究指導	①				
3	教授	鈴木 克彦	必修	都市設計実習	①	H31.3.31付け65歳で定年退職 (元)
			選択	都市・建築再生学演習Ⅰ	①	
			選択	都市・建築再生学演習Ⅱ	①	
			選択	住環境設計マネジメント	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅠ	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅡ	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅢ	①	
			選択	国際設計プロジェクトⅣ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅠ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅡ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅢ	①	
			選択	地域設計プロジェクトⅣ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅠ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅡ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅢ	①	
			選択	建築都市保存再生プロジェクトⅣ	①	
			選択	建築設計実務実習Ⅰ	①	
			選択	建築設計実務実習Ⅱ	①	
			選択	建築設計実務実習Ⅲ	①	
			選択	建築再生学特別講義Ⅰ	①	

		選択	建築再生学特別講義Ⅱ	①
		選択	建築再生学特別講義Ⅲ	①
		選択	建築再生学特別講義Ⅳ	①
		選択	研究指導	①
合計		後任補充状況の集計		
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
3 人	必修 1 科目	必修 1 科目	必修 0 科目	必修 0 科目
	選択 71 科目	選択 71 科目	選択 0 科目	選択 0 科目
	自由 0 科目	自由 0 科目	自由 0 科目	自由 0 科目
	計 72 科目	計 72 科目	計 0 科目	計 0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |                                 |
|---------------------------------|
| ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」         |
| ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」       |
| ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

辞任教員や定年退職教員が担当していた全ての科目について他の専任教員が担当しており、学生指導に不足はない状態であり、学生に対しては、教科課程公表の際に当該教員が退職した旨周知している。
---

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年)	本専攻での授業では原則英語を使用する」とあるが、例外としてどのような言語を想定しているか明確にし、当該言語で授業を行う際の学生へのフォローはどのように実施するか説明すること。	留意事項  日本人学生のための授業科目については、一部日本語で行うことを想定しているものです。 日本人以外の学生が含まれる場合は、全て英語で実施します。	履行済
設 置 時 (平成28年)	協定書1.3に「ただし、教育研究評議会の議を経て、学期の期間を変更することができる。」とある。この記載はチェンマイ大学の学生を8月から京都工芸繊維大学に受け入れるため、「学期区分」に8月からスタートする学期を設けることを想定したものと推測されるが、そのことを明確にすること。	留意事項  協定書1.3の但し書きについては、本学において従前より後(秋)学期の授業時間数の確保を目的として、学期の開始時期を9月最終週に変更することを可能とするために設けられているものです。 本専攻の設置に伴うチェンマイ大学学生の8月受け入れについては、別途平成29年3月23日開催の教育研究評議会において、審議・承認されています。	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	相手国の学生も履修する一部の科目のシラバスが日本語のみになっており、相手国の学生が科目選択をする際に支障をきたしているため、全てのシラバスについて、少なくとも日本語と英語で作成すること。併せて、シラバスの授業計画項目の記載については、各回の内容が分かるよう適切に改めること。	是正意見  全ての科目のシラバスの授業計画項目について、15の項目すべての内容を記載し、さらに、授業科目の評価基準については、複数の評価項目がある場合も含め、それぞれの評価項目ごとにパーセンテージで明確に示すようにした。 以上を行ったうえで、全ての科目のシラバスについて、日本語と英語で作成・表記した。  【添付資料①】	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	講義等においては、留学生の学修効果・成果の向上のため、英文の配付資料や説明資料等の活用・充実に努めるとともに、その内容を事前に学生に対して共有し、事前学修が行えるよう配慮に努めること。	改善意見  相手側の学生が履修する講義科目については、授業の概要をまとめた英文資料を事前に配布し授業前に学修できるようにした。また、事前学修も含めて履修のサポートをするTA（ティーチングアシスタント）もつけている。  【添付資料②】	履行済

設置計画履行状況 調査時 (平成30年)	授業科目の評価基準については、シラバス等 にあらかじめ明示されているものの、一部の 授業科目において評価基準が学生にとって分 かりにくいものとなっているため、分かりや すい明示に努めるこ と。	改善意見	授業の評価基準について は、学生にとって分かりや すいものとなるように修正 した。複数の評価項目があ る場合も含め、それぞれの 評価項目ごとにパーセン テージで明確に示すよう にした。  【添付資料①】	履行済	
----------------------------	---	------	--	-----	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<工芸科学研究科 京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>18. 協議及び協定について</p> <p>本学とチェンマイ大学との協議体制については、協定書8.5に定める連絡調整協議会を設置することとしている。構成員は、本学及びチェンマイ大学の専攻に所属の教員及び担当事務職員とし、連携外国大学との実質的な協議ができる体制とする。本協議会は、本学又はチェンマイ大学において共同開設科目を実施する時期に合わせ、年1回以上開催することとする。本協議会での主な事項は、教育課程の編成に関する事項、教育組織の編成に関する事項、入学者の選抜及び学位の授与に関する事項、学生の在籍管理及び安全に関する事項、学生の奨学及び厚生補導に関する事項、教育研究活動等の状況の評価に関する事項である。 (以下略)</p>	<p>「設置の趣旨等を記載した書類」のうち、18.に記載した連絡調整協議会を以下のとおり開催した。</p> <p>日時：平成31年2月6日（水）14:00～16:20 場所：京都工芸繊維大学 3号館第3会議室</p> <p>出席者： (本学) 木村博昭専攻長（議長）、高木真人准教授、角田暁治准教授 (チェンマイ大学) Dr.Ekkachai Mahaek、Assoc. Prof.Dr. Nawit ONGSAVANGCHAI、Asst. Prof. Dr. Pandin OUNCHANUM</p> <p>陪席者：本学国際課及び学務課、入試課事務職員合計6名</p> <p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育組織の編成に関する事項について</li> <li>2. 入学者の選抜について</li> <li>3. 学位の授与に関する事項について</li> <li>4. 学生の奨学及び厚生補導に関する事項について</li> <li>5. その他</li> </ol>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
・ 大学設置基準第51条2項に規定されている携外国大学との「協議の場」について、実施状況（開催日・議題等）を記載してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では、教育システム全般について包括的に調査・分析し、企画、立案、実施する組織として、総合教育センターを設置しています。 総合教育センターは、教育プログラム部会、教育評価・FD部会、地域連携教育部会の3部会を統括しており、FD活動の実施や検討及び審議に関しては、教育評価・FD部会が中心的な役割を担っています。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>平成30年度は、次のとおり教育評価・FD部会を開催しました。</p> <p><u>平成30年7月31日(火)</u> 議題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合教育センター 教育評価・FD部会の組織及び業務内容等について</li> <li>2. 平成30年度年度計画について</li> <li>3. 平成30年度FD事業一覧、スケジュールについて</li> <li>4. 平成30年度第1回教員FD研修会の実施について</li> <li>5. 「総合教育センター教育評価・FD部会報告書2017」の原稿確認について</li> <li>6. 大学院博士前期課程（修士課程）へのGPA導入について</li> </ol> <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成29年度FD事業報告について</li> <li>2. 平成30年度FD事業について</li> </ol>
--

平成31年1月30日(水)

議題

1. 平成30年度 第2回 教員FD研修会について

報告

1. 平成30年度 第1回 教員FD研修会実施報告について【報告資料1】
2. 平成30年度FD事業報告について
3. 高等教育段階の教育費負担軽減新制度への対応について

なお、部会構成員は次のとおりであり、部会の出席率はほぼ100%です。

総合教育センター副センター長	1名
各副学域長	7名
各副課程長	11名
各副専攻長	13名
各副学科目長	3名
学務課長	1名
学長が指名する者	若干名
合計	36名+若干名

c 委員会の審議事項等

教育評価・FD部会の審議事項は次のとおりです。

- (1) 教育実態及び教育成果の調査方法の検討に関する事
- (2) 授業評価の実施及び分析に関する事
- (3) 教育改善についての研修会・講演会等の実施(新人教員の研修を含む)に関する事
- (4) 授業公開の実施及び分析に関する事
- (5) 教育懇談会、卒業生・修了生調査協力者会議の実施に関する事
- (6) 成績評価法の研究に関する事
- (7) 大学評価室との連携に関する事
- (8) 教育に対する自己点検・自己評価に関する事
- (9) その他関連事項

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 授業公開
- (2) 担当授業科目アンケート
- (3) 教員FD研修会
- (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

b 実施方法

- (1) 教員相互の授業参観(授業公開)
- (2) 教員による担当授業科目アンケート
- (3) 教員FD研修会
- (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

c 開催状況(教員の参加状況含む)

(1) 授業公開

- ・ 毎学期(前学期は6月、後学期は12月)、学部・大学院の全授業科目を対象として実施
- ・ 参観後は参観者・授業担当者双方がレポートを提出

■前学期/春学期の授業公開

実施期間：平成30年5月28日～6月22日  
参観科目数：36科目  
参観者数(延べ人数)：42名

■後学期/秋学期の授業公開

実施期間：平成30年11月12日～12月7日  
参観科目数：38科目  
参観者数(延べ人数)：46名

## (2) 担当授業科目アンケート

- ・『受講者確認/成績入力Webシステム』を利用し、毎学期の成績報告に合わせてWeb上で実施

### ■前学期/春学期の教員による授業評価

実施期間：平成30年7月2日～8月20日  
アンケート回答科目数：324科目  
アンケート回答教員数：210名  
アンケート回答率（科目）：55.8%  
アンケート回答率（教員）：75.0%

### ■後学期/秋学期の教員による授業評価

実施期間：平成31年1月9日～2月18日  
アンケート回答科目数：302科目  
アンケート回答教員数：181名  
アンケート回答率（科目）：54.6%  
アンケート回答率（教員）：64.6%

## (3) 教員FD研修会

### ■平成30年度第1回教員FD研修会

開催日：平成30年11月22日（木）10：00～12：00

開催場所：本学

内容：第1部 海外教育連携事業における派遣教員による講演

内 容：海外大学において実施した教育活動の概要、海外大学と本学の教育方法の比較  
（参考にすべき点、本学の優れた点など）

講演者：織維学系 麻生祐司先生、デザイン・建築学系 池側隆之先生

第2部 講演・パネルディスカッション「障害のある学生への「合理的配慮」

～発達障害・精神障害学生への有効な支援方法とは～

講演者：藤川洋子 先生（司会）

門 眞一郎 先生（精神科医）

水野 修 先生（指導教員）

稲葉宏幸 先生（研究担当教員） 他

参加者：74名

### ■平成30年度第2回教員FD研修会

実施日時：平成31年3月8日（金）10：00～12：00

開催場所：本学

内容：第1部 Moodle等のネットワークサービスを用いた教育に関する講演

内 容：ネットワークサービスを活用した授業の例として、Webベースの学習管理システム  
Moodle、および授業を補足する解説動画の作成と使用例、さらに中丹地区社会人教育に  
おけるTV会議システムを使った授業について

講演者：電気電子工学系 島崎仁司先生、情報科学センター 森真幸 先生

第2部 京都発人材育成エコシステムの創り方

内 容：大学界も経済界も新しい発想での人材育成の必要性について、NPO法人グローバル人材開発  
センターによる講演

講演者：特定非営利活動法人グローバル人材開発センター 事務局長

京都産業大学 法学研究科法政策学専攻 中谷 真憲 教授

参加者：62名

### ■各課程・専攻等におけるFD研修

開催日：平成30年11月22日～平成31年1月31日

開催母体：各課程、独立専攻及び学科目（全14組織）

内容：第1回教員FD研修会で配付された資料を用いた情報共有や意見交換の実施。

参加者数（参加率）：169名（57.9%）

### ■教員のFD活動参加率

265名（90.8%）

#### (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

##### ■大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

###### (1) 新任教員FD合同研修

〔新任教員を対象とした授業デザインや成績評価のためのワークショップ〕

※本学では主な参加対象を採用後3年以内の教員としている

###### <第1回>

日 時：2018年9月29日（土）13：00～17：15

会 場：キャンパスプラザ京都 2階 ホール

テーマ：①「大学コミュニティについて」

講師：大学コンソーシアム京都事務局

②「FDの基礎知識－持続的な能力開発に向けて－」

講師：耳野 健二 氏（京都産業大学現代社会学部教授）

③「授業デザインのための基礎知識・ワークショップ」

講師：浅田 瞳 氏（華頂短期大学幼児教育学科准教授）

講師：岡本 信照 氏（京都外国語大学外国語学部教授）

###### <第2回>

日 時：2018年10月13日（土）13：00～18：00

会 場：キャンパスプラザ京都 5階 第2演習室

テーマ：「授業設計・授業実践ワークショップ」

講師：阿部 一晴 氏（京都光華女子大学キャリア形成学部教授）

###### <第3回>

日 時：2018年11月12日（月）18：00～20：00

会 場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室

テーマ：「成績評価のための基礎知識・ワークショップ」

講師：藤原 学 氏（龍谷大学理工学部教授）

###### <第4回>

日 時：2019年1月21日（月）18：00～20：00

会 場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室

テーマ：「学習支援・特別支援ワークショップ」

講師：村田 淳 氏（京都大学学生総合支援センター准教授）

###### <第5回>

日 時：2019年2月4日（月）18：00～20：00

会 場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室

テーマ：「学習者中心の授業ワークショップ」

講師：澤田 美恵子 氏（京都工芸繊維大学基盤科学系教授）

講師：松本 真治 氏（佛教大学文学部教授）

講師：森 希理恵 氏（平安女学院大学短期大学部保育科准教授）

#### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

##### (1) 授業公開

授業公開は平成16年度から実施しており、参加者数向上のために、都度対象科目の拡大や実施期間の延長等の策を講じています。

レポートのコメントからも、参観する、あるいは参観される教員双方にとって、自らの授業方法を改めて見つめ直す端緒となり、また、関連する授業科目間の連携や補完関係を深めるための契機となっています。

##### (2) 担当授業科目アンケート

教員による担当授業科目アンケートは、平成20年1月に平成19年度開講授業担当者を対象に試行で実施し、その結果を踏まえ、平成20年度前学期からは毎学期末に実施しています。

平成22年度からは『受講者確認／成績入力システム』（Webシステム）を利用して、教員が担当科目の成績を報告（入力）する際に、あわせてアンケートに回答する仕組みを導入したため、回答率が大幅に向上し、以後高い水準を維持しています。

アンケートに回答する教員自身の振り返りや気づきになると共に、アンケート集計結果をWeb上で学内に公開することで、授業への有効な取り組み方について情報共有を図っています。

##### (3) 教員FD研修会

本学では、長年にわたって大学教育の質の向上を目的としたFD活動を行っており、その取り組みの一環として毎年教員FD研修会を開催しています。

近年、参加者数が40名程度にとどまっていたことから、平成27年度より、アンケート等で教員から要望のあったテーマを基に、年2回開催することとしました。結果的にほぼ全ての教員組織から毎回60名を超える参加があり、学内的に大きな広がりを見せました。

特に、FD部会委員（副課程長、副専攻長、副学科目長）をリーダーとして、教員FD研修会で学んだ知識やノウハウについて、資料を用いて、課程、専攻、学科目内で二次的な研修会等を実施したところ、参加者数は約200名を記録し、FD活動への高い関心を示しています。

今後も、その時々教員のニーズやトピック的な事案をテーマとして、効果的な教育方法を検討するための一助となるような研修会を実施する必要があると考えています。

(4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

大学コンソーシアム京都では、単独では実施することが困難な体系的なFD研修プログラムの実施をはじめ、さまざまな実質的なFD取り組みを実現させるため、平成20年度文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択された「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」により佛教大学を代表校とする18大学・短期大学と共に京都地域におけるFD活動を推進してきました。

当該事業は平成23年度で補助金事業としては一旦終了しましたが、翌年度からはその事業成果を引き継ぎ、大学コンソーシアム加盟50大学での取組へと活動を広げていくことになりました。

特に新任教員には、大学コンソーシアム京都が主催する新任教員FD合同研修プログラムの受講を推奨しており、受講者からは「大変有意義な研修であった」「他大学の教員との交流が刺激になった」等、肯定的な感想が多く見受けられます。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

■実施の有無

本学では、平成15年度から学生による授業評価アンケートを実施しています。

■実施時期

前（春）学期：平成30年7月9日～10月10日

後（秋）学期：平成31年1月9日～4月11日

b 教員や学生への公開状況、方法等

■実施方法

本学では平成28年度より、紙媒体でのアンケートを廃止し、Web方式に移行しました。授業評価アンケートに回答していれば、当該学期の成績が確認出来る仕組みを構築したため、90%を超える高い回答率を維持しています。

加えて、事前準備、集計作業に伴う業務負担の軽減や費用の削減、教員や学生に対する早期の集計結果フィードバック、欠席者のアンケートが集計可能になるなど、多くの成果が上がりました。

平成30年度の実施状況は次のとおりです。

(1) 前（春）学期

対象科目：すべての開講科目

アンケート回答科目数：学 部 654科目

大学院 297科目

合 計 951科目

アンケート回答率（科目）：学 部 97.2%

大学院 79.9%

合 計 91.0%

(2) 後（秋）学期

対象科目：すべての開講科目

アンケート回答科目数：学 部 613科目

大学院 254科目

合 計 867科目

アンケート回答率（科目）：学 部 94.89%

大学院 83.01%

合 計 91.07%

■公開状況

集計結果は、次の方法で教員や学生に公開しています。

【学務課ホームページ（学生・教職員専用ページ）】

・回答率や全設問の回答平均値（科目名・担当教員名も公開）

【担当教員へのフィードバック】

・科目毎の集計表（各設問評価毎の人数、グラフなど）

・科目毎の回答一覧表（回答者毎の回答内訳）

【FD報告書に掲載（隔年発行）】

・全体回答平均値経年推移

・科目分類別（全学共通/専門基礎・導入/課程専門）全体平均値

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

日本の建築界では、タイを中心とした東南アジア諸国において、都市の拡大や整備計画あるいは伝統建築の保存や再生などに対応できる建築家・技術者・研究者など高度専門職に関わるグローバルな人材が求められている。一方、タイにおいても同様な要請に対応できる高度専門職に関わる人材が必要とされているが、大学における修士課程修了者はまだ少なく、その拡大と深化が課題となっている。こうした社会的要請も踏まえ、ASEAN北部の中心都市でありかつタイ第2の都市であるチェンマイに位置するチェンマイ大学と本学の意向が合致し開設したのがこの国際連携建築学専攻である。

国際連携建築学専攻では、国際的展開に主眼を置いて建築設計学と都市・建築再生学を中心とした分野の教育プログラムを提供するのみでなく、一つの大学だけでは提供できない魅力ある新たな体系の建築学教育プログラムを構築し、「建築学における基本的な知識や技能に加え、国際的にも通用するより高度な設計能力や研究能力を修得し、それを応用する能力」の習得を目指している。そして、国際通用性のある高度国際専門職（建築家、技術者、研究者など）を育成することが設置の趣旨である。

上記の設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見は、以下のようである。

##### 1. 学生の志願状況について

国際連携建築学専攻（博士前期課程）は、定員4名であり、チェンマイ大学と本学でそれぞれ2名の定員である。初年度（平成29年度）は、本学側は平成28年9月に入試を行い、5名が受験、うち2名が合格し、入学した。チェンマイ大学側は、平成29年7月に入試を行い、3名が受験、うち2名が合格し、入学した。二年目（平成30年度）の本学側は、平成29年8月に入試を行い、3名が受験、うち2名が合格し、入学した。そして、チェンマイ大学側は、平成30年6月に入試を行い、2名が受験、うち2名が合格し、入学した。

三年目（平成31年度）の本学側は、平成30年8月に入試を行い、5名が受験、うち2名が合格し、入学した。チェンマイ大学側は、令和元年7月に入試を行い、2名を確保する予定である。現在、募集要項をタイ国内大学のみならず、専門職団体であるタイ建築家協会、ASEAN北部地域のラオス、ミャンマー、ベトナムなどの大学にも配布し、優秀な学生の確保を目指している。チェンマイ大学側の入学者には、タイおよびASEAN北部地域だけではなく、全世界からの進学者を想定しており、また経済的な支援として奨学金受給枠の拡充等も図っている。本学側では、平成30年度からは既存の建築学専攻を第2志望として選択できるようにし、定員の少ない専攻でも受験しやすいように配慮している。

##### 2. 教育方法について

カリキュラムは設置申請どおり開講し、基本的な変更はない。毎年4月の開講に伴い、既存の建築学専攻のオリエンテーションと同時に国際連携建築学専攻のオリエンテーションを開催し、設置主旨、カリキュラム説明、必要事項等全体説明を行っている。また、既存の建築学専攻と同じように、本専攻についても大学院2年で必要な条件を満たせば、一級建築士受験に際して必要な実務経験のうち1～2年を認定される。今後もこれら教育方法の充実・実践に向けて一層努力していく。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

・平成30年3月 公表

##### b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

#### ③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関（大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

### (4) 情報公表に関する事項

#### ○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （  有 ・  無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年6月末 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。